

第四次浦添市総合計画について

■「第四次浦添市総合計画」とは

本市では、「てだこの都市・浦添」を将来都市像とした「第四次浦添市総合計画」を今年度から取り組んでいます。

この計画は、本市の将来を展望するまちづくりの基本となる計画で、昭和52年に策定した第一次計画から昨年度までの第三次計画を基に、理想とする浦添の姿を目指すための長期的、総合的なまちづくりの目標を示しています。

今回の計画の基本構想は平成23年度から平成32年度を目標年度とする10年計画となっており、その構想を実現するための基本計画を前期5年間、後期5年間としています。更に基本計画に定められた施策を具体的に事業化するため、期間を3年間とした実施計画を立て、毎年見直しを行いながら予算編成の指針とします。

今回は、「第四次浦添市総合計画」の中から「基本構想」について紹介します。

浦添の都市像

てだこの都市・浦添

「てだこ」とは、英祖王の神号「英祖日子」にちなんだものです。「てだこの都市・浦添」は英祖王のすぐれた実績を学ぶとともに、すべての市民の人間としての幸せと永遠なる発展力を保持していきたいという願いをこめたものです。

計画では、その願いを実現していくために「人間尊重」・「自立」・「平和」をまちづくりの基本理念としています。

まちづくりの目標

～太陽とみどりにあふれた国際性ゆたかな文化都市～

「太陽とみどりにあふれた」

- 《すべての市民が太陽(ティーダ)のようにいきいきと輝く》
- ・参画と協働によるまちづくりを基本に、市民が主役となり、地域への愛着を持ち、市民一人ひとりが生きる喜びと自信にあふれ、健康で幸せを共感し、生き生きと「ひと」が輝くまちづくりの姿を表しています。
- 《豊かな自然(緑と水)と歴史・文化を大切に守り・活かした住みよいまち》
- ・琉球王統発祥の地である浦添グスクをはじめ、浦添断層崖から経塚沢岬へと続くまとまった緑や市内を流れる河川や海など、自然環境や歴史文化資源を市民の共通の財産として大切に守り・活かし、やすらぎと快適にみちた、風格ある「都市(まち)」を後世に継承していくまちづくりの姿を表しています。

「国際性ゆたかな文化都市」

- 《世界に開かれた活力と創造性豊かなまち》
- ・本市固有の自然や歴史文化をよりどころに、おおらかで温かい市民の心や創造的な市民文化を育み、市民自らの国際性を培い、交流の輪を世界に広げるとともに、ヒト・モノ・情報の交流を活かした、にぎわいと活力にあふれたまちを創出するなど、世界に開かれた活力あるまち、新しい未来を創造していくまちづくりの姿を表しています。

■土地利用の方針

浦添グスクからの風景は、過去から現在、そして未来への「うらそえ」ものがたりです。そこには、私たちが誇りとする琉球王統発祥の地としての歴史資産と、それを支えた自然環境や活気に満ちあふれた街並みが広がっています。

土地利用については、成長社会から成熟社会への転換期という時代認識のもと、長期的、広域的視点に立って、開発と保全の調和を図るとともに、本市の自然・歴史・社会的特性を踏まえ、生き生きとした市民生活と活力ある都市活動の舞台となるまちづくりに努めます。

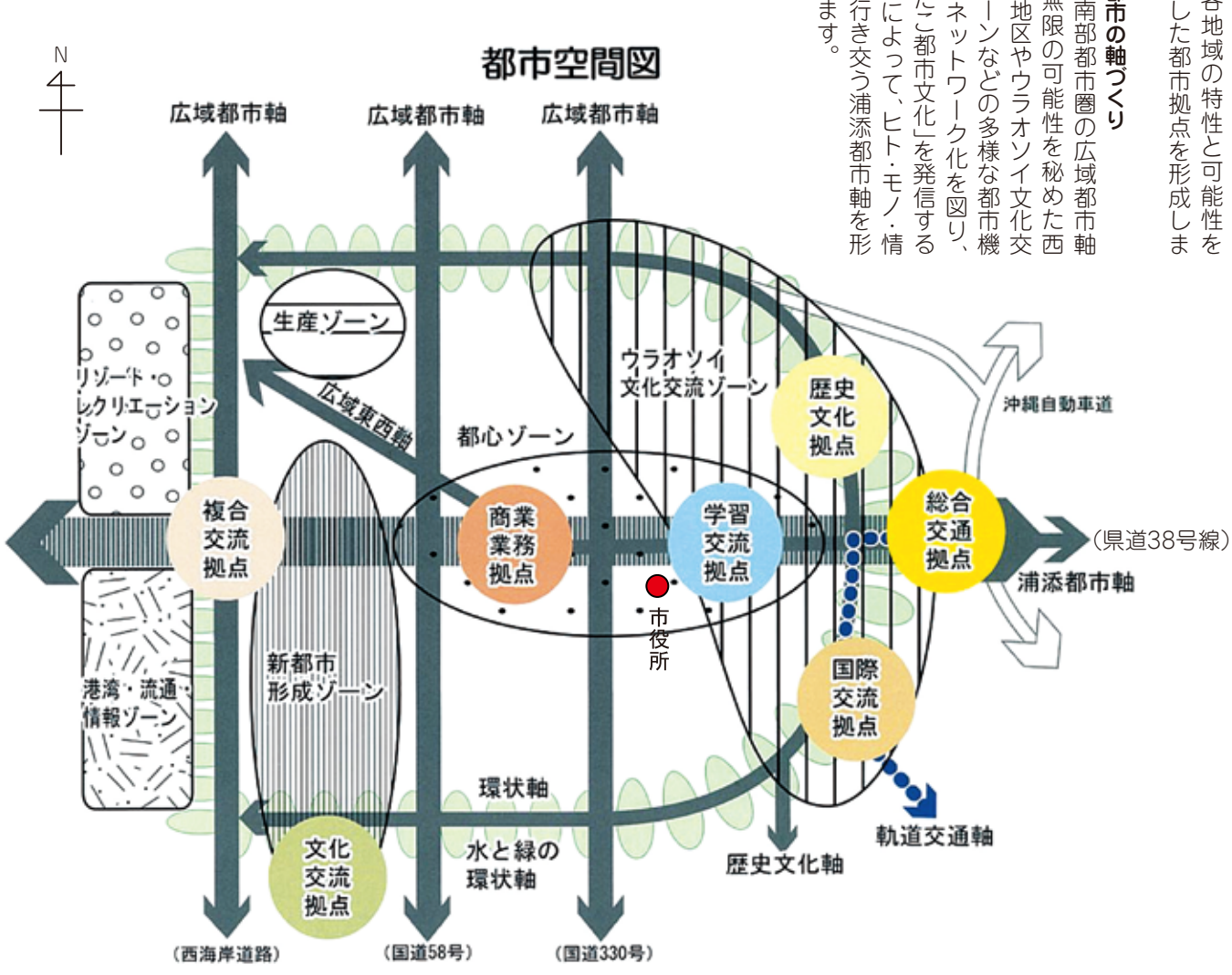
一 自然・歴史環境との共生

自然と歴史を守り育て、環境と共生するまちづくりを進めるため、都市に潤いと安らぎを与える「クサティ森」や、牧港川、小湾川などの自然・歴史資産の保全・創出に努めるとともに、これらを活かした計画的な土地利用を図ります。

二 都市の拠点づくり

本市は、本県中南部都市圏の中核都市として、経済や文化・交流などの舞台づくりが進む中で、伝統文化と新たな市民文化が融和し、未来へ息吹が感じられる個性豊かな魅力あるまちづくりを進めるため、各地域の特性と可能性を活かした都市拠点を形成します。

※ 1 クサティ森：安心してよりかかれるものという方言。自然の森。



■ まちづくりの方向

一 希望と活力にあふれた生活創造都市

「新たな魅力の創造と市民生活を支えるまち」

都市基盤が充実し、産業や経済を通じた交流などのにぎわいは、都市の魅力を一層高めます。

私たちは、琉球王統発祥の地として、大交易時代の扉を開いた輝かしい歴史を誇りにしつつ、未来への希望と活力が満ちあふれ、市民一人一人が豊かさを実感できるまちづくりを進める必要があります。

そのため、市民生活を支える産業の振興や、社会・経済活動を支える都市基盤の充実を図り、西海岸地域をはじめ、本市の有する資源と可能性を活かした、物流・生産・産業交流などの経済活動が展開される、「希望と活力にあふれた生活創造都市」を目指します。